

令和元年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

かすみがうら市 解答と解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	かすみがうら市の鳥はウグイス(鶯)です。春を告げる鳥として、心を和ませてくれる美しい鳴き声に、明るく希望にみちた将来への願いを込めています。	2
2	新しいかすみがうら市の公式キャラクターは妖精、かすみがうにゃです。霞ヶ浦をイメージしたかすみ帽子に、帆引き船の帆の形をした耳、アジサイの羽とヤマザクラの肉球で、一生懸命地域をアピールしてくれています。	4
3	伊東甲子太郎(いとう かしたろう)は、かすみがうら市志筑(しづく)地区出身で江戸に上って北辰一刀流を学びました。京都で新選組に入ってから、特別職の参謀となりました。	2
4	1834年(天保5年)に生まれた折本良平(おりもと りょうへい)は、明治初期の霞ヶ浦漁業において、少人数でも漁獲を上げるために「帆引き船」を開発し、周辺地域の漁業の活性化に貢献しました。ブックレット かすみがうら市の先人シリーズ2『折本良平と帆引き船—霞ヶ浦の風物詩—』でも紹介しています。	1
5	かすみがうら市では子育て世代向けアプリとして「かすみっ湖(こ)アプリ」や、子育て支援ウェブサイト「かすみっ湖」を提供しています。また、情報発信の手段として「かすみがうら市行政アプリ」なども積極的に活用しています。	3
6	かすみがうら市加茂(かも)にある「下大津(しもおおつ)の桜」は、旧下大津小学校校庭に1904年(明治37年)に移植されたソメイヨシノで、県指定文化財(天然記念物)の土浦市真鍋小学校のソメイヨシノより古木とされています。毎年4月初旬には「下大津桜まつり」が催されています。	4
7	椎名家住宅は、1620年代以前からかすみがうら市加茂(かも)に住む旧家のものであり、国指定文化財となっています。1970年(昭和45年)に解体修理工事が行われ、現在は建築当時の姿に復元されています。	2
8	1955年(昭和30年)までに淡水魚41種、遡河魚6種、海水魚22種の69種が確認され、その後に常陸利根川改修に伴う汽水性の魚種が加わり、近年では外来種も増えて、霞ヶ浦で確認された魚種の累計は100種類を超えました。しかし、その後減少し、現在では約50種となっています。	3
9	水戸藩主や奥方が心待ちにしていた産卵直前の鯉を、はらみ鯉と呼びました。産卵のためにお腹が張った鯉は、卵も身も美味とされ、水戸藩主等へ献上される場合には、目録と共に贈られた記録が残っています。	2
10	かすみがうら市出身の山本鹿州(やまもと ろくしゅう)は、循環障害に基づく上肢(じょうし)障害(上肢のしびれ感、脱力感、冷感など)を伴い、脈を判別することが困難になる大動脈炎症候群、別名、脈なし病を世界で初めて臨床報告しました。	3
11	市で生産された農林水産物または加工品の中で、一定の条件をクリアしたものを市の推奨品として「湖山(こざん)の宝」というブランドに認定しています。	1
12	雪入(ゆきいり)ふれあいの里公園は、採石場の跡地を利用した自然公園です。園内では花崗(かこう)岩や変成岩をはじめ、筑波山塊の動植物を観察できます。園内のネイチャーセンターでは、採石中に発見された珍しい鉱物も展示されています。	4
13	飯田吉英(いいた よしふさ)は、かすみがうら市に生まれ、食肉加工の先覚者として知られた人物です。1918年(大正7年)、カール・ヤーンらドイツ人から伝統のソーセージ作りを教わり、日本で初めて本格的なソーセージを作ったとされています。その他にも、食肉加工分野で多大な功績を残しました。	4
14	「出島(でじま)の椎(しい)」と呼ばれる、かすみがうら市下軽部(しもかるべ)にある長福(ちようふく)寺の山門脇に茂るスダジイは、高さ約15メートル、幹の周囲約7メートル、樹齢約700年になる巨木です。	2
15	霞ヶ浦湖畔で暮らし、絵画教室を開きながら自然と急速に変化する霞ヶ浦の景観や水質に対する心情を作品に著した小林恒岳(こばやし こうがく)の作品が、昨年かすみがうら市に寄贈されました。歴史博物館でも今年度企画展として「小林恒岳と霞ヶ浦」を開催し、多くの来館者が訪れました。	3
16	かすみがうら市は、「現存する遺跡の数が茨城県内で1番多い市町村」であり、788か所もの遺跡(周知の埋蔵文化財包蔵地)が確認されています。	1
17	かすみがうら市歩崎(あゆみざき)にある、かすみがうら市水族館では数多くの霞ヶ浦に生息する淡水魚などを展示していますが、シンボルマークになっているのはオイカワという身近なコイ科の淡水魚です。	4
18	自転車がかすみがうら市内を巡りつつ、果物狩りなどを楽しむサイクリングプログラムがライドクエストです。歩崎(あゆみざき)公園にある交流センターを発着点としていますが、そのルートを示すレンコンが車輪になった自転車の看板は、市内至る所で目にすることができます。	2
19	市の推奨品ロールケーキ「かすみロール」に使われているのは、かすみがうら市産の新鮮な卵と、白ワインと赤ワインで煮込んでスライスした2色のレンコンです。チーズ入り生クリームによるさっぱりとした味わいが特徴です。	3
20	民家園は江戸時代(18世紀後半)の建築と伝えられる茅葺(かやぶき)民家、福田家住宅・福田家板倉を移築したものです。農耕用の馬を飼っていた馬屋(まや)が母屋に繋がった曲家(まがりや)と呼ばれるつくりをしています。	1
21	レンコンは、漢字では蓮根と書きますが、ハスという植物の地下茎(ちかかけい)です。地下の泥の中で成長するレンコンの、節のところから出るひげのようなものが根なのです。	2
22	古墳時代に棺(ひつぎ)として使われていた岩の多くは変成(へんせい)岩です。堆積した泥や砂が層状に固まってできた石のため、板状に割れる性質があることから、古墳時代にはそれを組み合わせて箱形石棺(はこがたせっかん)としたものが数多く見られました。	4
23	竹内百太郎(たけうち ひやくたろう)は、かすみがうら市安食(あんじき)地区出身で、弘道館などで水戸学を学び、砲術や剣術も江戸で学んだ秀才でした。ブックレット かすみがうら市の先人シリーズ『竹内百太郎と伊東甲子太郎(いとう かしたろう)—つながるワタシたち—』でも紹介しています。	1
24	平三坊(へいさんぼう)は、牛渡(うしわた)地区の鹿島神社でお田植祭りとも呼ばれる祭事です。始まりは農夫の平佐(へいさ)とその女房(にようぼう)が田植え行事を面白おかしく演出したことから「平佐女房」が略され「へいさんぼう」になったとされます。	3
25	湖山(こざん)ウォレットアプリをスマートフォンにインストールすることで使えるようになる湖山ポイントは、さまざまな事業、イベントに参加することで取得することができ、取扱店では1ポイント1円で使えるだけでなく、アプリを持つ友人同士でやりとりすることもできます。	4